

会 議 録

会 議 の 名 称	平成 29 年度第 2 回弘前市高齢者福祉計画・介護保険事業計画審議会
開 催 年 月 日	平成 29 年 9 月 28 日 (金)
開 始 ・ 終 了 時 刻	14 時 00 分 から 15 時 30 分まで
開 催 場 所	弘前図書館 2 階視聴覚室
議 長 等 の 氏 名	石澤 誠
出 席 者	会長 石澤 誠 副会長 中村 亨 委員 齋藤 武 委員 小野 穰 委員 木村 留次郎 委員 山形 正臣 委員 三上 ナツエ 委員 柳田 光祥 委員 今 幸夫 委員 齋藤 拓 委員 小川 幸裕 委員 澤田 徳芳
欠 席 者	委員 山中 朋子 委員 波多野 厚緑
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	健康福祉部理事 須郷 雅憲 介護福祉課長 三上 誠 介護福祉課長補佐 工藤 繁志 介護福祉課長補佐兼自立・包括支援係長 齋藤 隆之 介護福祉課主幹兼介護事業係長 山谷 亙 介護福祉課主幹兼介護給付係長 川田 哲也 介護福祉課介護保険料係長 工藤 和法 介護福祉課高齢福祉係長 藤田 文明 介護福祉課主幹兼介護認定係長 佐々木 順一 介護福祉課介護事業係主査 廣田 洋平 介護福祉課介護事業係主査 蝦名 良平 介護福祉課介護事業係主事 玉田 彰 福祉政策課長 今 敏行 健康づくり推進課長 一戸 ひとみ
会 議 の 議 題	(1) 第 7 期弘前市高齢者福祉計画・介護保険事業計画素案骨子について (2) 日常生活圏域ニーズ調査結果について
会 議 結 果	下記会議録のとおり
会 議 資 料 の 名 称	資料 1 第 7 期弘前市高齢者福祉計画・介護保険事業計画素案骨子 資料 2 弘前市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果について

<p>会議内容</p> <p>(発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 案件</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
<p>(会長)</p> <p>(木村委員)</p> <p>(事務局)</p> <p>(会長)</p> <p>(小川委員)</p>	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長挨拶</p> <p>3. 案件</p> <p>(1) 第7期弘前市高齢者福祉計画・介護保険事業計画素案骨子について</p> <p>(2) 日常生活圏域ニーズ調査結果について (事務局より資料1について説明)</p> <p>【以下 主な質疑応答】</p> <p>委員の皆様からご質問ご意見などございますでしょうか。</p> <p>この計画は、地域の方々、町会長や役員の方などへ説明など行う計画はあるのでしょうか。よく、地区の町会連合会などの会議にエリア担当の人が来ていろいろ説明するんですけども、こういうものを末端まで浸透させるとすれば、ある程度地域の町会連合会の会合に出て行って、この計画に関する理解を得ると。そのことによって末端の地域の方々の協力につながるという意味合いにおいて、やはり、地区まで行って説明をするということも必要だと思うんですけども。</p> <p>たとえばエリア担当を通して説明することなどもやっても良いような気がするんですけども。</p> <p>確定したものにつきまして、エリア担当を通して説明することを検討したいと思います。</p> <p>他にご意見はありますか。</p> <p>6 ページ目の2の③についてですが、第6期弘前市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（以下「第6期」と表記）の課題を踏まえて第7期弘前市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（以下「第7期」と表記）に繋がっていくという理解でよろしいのですか。</p>

<p>(事務局)</p> <p>(小川委員)</p> <p>(事務局)</p> <p>(会長)</p>	<p>はい。</p> <p>③の生活支援コーディネーター、生活支援協議会等をもう少し説明していただきたい。</p> <p>第6期の課題として、助け合い体制の構築が挙げられているということは、不十分ということなんで、どういった点で不十分であったのか。また、④のカフェ等がどのくらい増えたのか、また目標に掲げていたところに達しなかった理由をお聞かせください。</p> <p>まず、生活支援コーディネーター、生活支援協議会の方ですけれども、こちらは国の示す地域支援事業の中の包括的支援事業に位置付けられた事業ということで、コーディネーターや協議会の役割としては、総合事業の新たなサービスの構築の役割を担うという役割が一つと、もう一つは地域づくりとしての役割も担うという、大きくは2つの役割を担っております。</p> <p>生活支援コーディネーター、生活支援協議会、この事業については、市の方では今年度から取り組んでおりますので、新たな課題というのは、いまちょうど取り組んでいるということでご理解いただければと思います。</p> <p>具体的な取組としては、生活支援コーディネーターを社会福祉協議会に委託しております。業務内容としては、地域の担い手の育成、ボランティアの育成、地域課題の把握、それから高齢者の居場所づくりということで、市内の方に何か所か設置をして、30年、31年とそれを拡大していただくという業務をお願いしております。</p> <p>市の方でもこちらの取り組みにつきましては、居場所づくりのための補助金を、国の地域生活支援事業を活用して作っており、コーディネーターさんと情報のやり取りをしながら、居場所づくりを進めている所です。</p> <p>そのあたりをコーディネーターと歩調を合わせながら来年度も拡大して行きたいということで取り組んでいる所ですが、取り組みが始まったばかりという所で、第7期に向けて拡大していきたいということで課題として載せております。</p> <p>居場所づくりについては、今年度、新たに始めた事業ということで、今年度市の補助金を活用して設置したのが3か所、その他に現在相談を受けている所が3か所ありまして、更に、社会福祉協議会（以下「社協」と表記）の方に設置しているコーディネーターの所にもあと2か所くらいは設置したいとの考えのある地区があるということです。</p> <p>このコーディネーターは地域包括支援センターに配置しているのではなくて、別なところに配置しているのですか。</p>
---	---

<p>(事務局)</p>	<p>今、設置しているコーディネーターは、市全域を担当する広い意味でのコーディネーターを配置している所で、社協の方に業務委託という形で配置しております。</p> <p>来年度以降になりますけれども、第2層ということで、もっと狭いエリアを担当する形の生活支援コーディネーターの配置を検討しております。</p> <p>こちらについては、地域包括支援センターの方に置けるのか、それとももっと適切な方がいらっしゃるのかということで、社協さんと情報交換をしているところです。</p>
<p>(今委員)</p>	<p>生活支援コーディネーターが決まっていく訳ですがけれども、私は地域包括支援センターの協力があった方がいいと思うのですがいかがですか。ただ、コーディネーターと生活支援協議会だけではちょっとやれないような感じを受けているのですけれども。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>地域づくりということで、いろんな方の参画が必要だと思っております。市としても社協に設置しているコーディネーターと情報共有をして、一緒に進めている所で、もちろん色々な情報の交換という所では、地域包括支援センターは重要だと思っております。</p>
<p>(会長)</p>	<p>社協としては何かありますでしょうか。</p>
<p>(柳田委員)</p>	<p>2025年問題というのがこの頃盛んに言われます。大合唱です。2025年に75歳以上になるのが私です。年寄りが増えた増えたと言いますけれども、年寄りが増えたのは年寄りのせいではありません。</p> <p>若い人とのやり取りの中で、『じっちゃすごいな』とか『ばっちやってさすがだ』とか言われることあるでしょう。私はこの年寄問題にあんまり腫れ物に触るように、社会が敏感になりすぎているのではないかと。心の在り方だと思います。若い人も年を取った人も、あるいは具合が悪くなった人も、何か共通した問題として頑張ろうねというのが、意識として醸成されていかないものかというのが不満と言えば不満です。</p>
<p>(会長)</p>	<p>非常に重要なご意見を頂きました。高齢者の社会参加ということで、何か委員の方からありませんでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>いろいろなお話がありましたけれども、市の方でも、高齢化率がどんどん進んでいく状況の中で、元気な高齢者を増やしていくことを目指しています。今お話した様々な運動であるとか、趣味であ</p>

	<p>るとか、その他にニーズ調査を見ますと、働くことが生きがいという数字がすごく大きいです。市としては元気な高齢者を増やしていく取り組みをして、生きがいを持って暮らしていけるように施策を展開していきます。</p>
(会長)	<p>他にありますかでしょうか。</p>
(齋藤拓委員)	<p>認定調査についての質問です。認定調査の委託を受けたケアマネジャーが、自分の担当している利用者を調査するということがあるかどうか教えていただきたい。</p>
(事務局)	<p>はい。これはシャッフルと呼んでおりますが、担当のケアマネジャーがケアプランを担当している別の事業者さんに調査依頼を行うということをご何年か行っておりますが、全部のケースがシャッフルされている訳ではありません。物によってはシャッフルできないケースもあつたりしますが、去年のケースで行けば6割から7割ぐらいはシャッフル出来ている状況です。</p>
(齋藤拓委員)	<p>残りの3割4割の人はなぜ担当のケアマネジャーが調査を行わなければならないのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>たとえば、市が直接調査をしている部分もあります。それからグループホームは担当のケアマネジャーがいないということもあります。</p>
(齋藤拓委員)	<p>新規認定は市の方で行っているのですか。</p>
(事務局)	<p>新規と区分変更に関しては100パーセント市が直接行っています。ただ、更新に関しては件数が非常に多いということで、市が直接調査を行うという所まで中々手が回らない状況にありますので、基本的には業者さんと委託契約を締結し、やっていたいただいているという状況です。</p>
(会長)	<p>大変苦勞されているようですね。他にありますかでしょうか。</p>
(齋藤武委員)	<p>先程の生きがいづくりについてなんですが、第6期でやっていて、この活動に参加した人は、たとえば要支援1から要支援2に上がる人が少なかったとか、そういったデータみたいなものを持っているのかを確認したいのと、認知症初期集中支援チームができるのはいつ頃になるのか教えていただきたいと思います。</p>

(事務局)	<p>認知症初期集中支援チームは今年の 12 月の設置を予定しております。それに向けて今、作業を行っているところです。</p>
(事務局)	<p>生きがい対策ですが、介護度が改善したというデータは持っておりませんが、市の方で生きがい対策の一つとして捉えております『高齢者健康トレーニング教室』こちらの方では実際に介護度が改善したというデータはございます。</p>
(会長)	<p>第 7 期の提案についてはいかがですか。</p>
(小川委員)	<p>8 ページ目の地域包括ケアの推進についてですが、地域課題がこれから明らかにされていくと思うんですけれども、その課題に対して多様な主体・社会資源を活用してということが重要になっていく訳ですが、地域包括支援センターだけにその役割を担ってもらおうというのは現状では難しいと思います。多様な主体がどの地域にどのくらい配置されるかが見えてこない、何とも議論がしにくいと思いますので、今後どういった主体に対して活動を依頼していくのか、また活用する対象としていくのかなど、整理をしていかないと、あれもこれもという形にはもちろんいかないですし、見える化またはマップ化などして、できれば次回の資料にさせていただいて、資源が少ない地域があって、資源が多い地域もありますし、それを同じ計画でというのも難しいと思いますし、見える化をしていただきたいと思います。</p>
(会長)	<p>事務局から何か説明はありますか。</p>
(事務局)	<p>多様な主体ということで、我々としても地域の高齢者の居場所づくりという観点から地域に入って行って、民生委員とかそういった方からお話を聞いている所なんです、おっしゃるとおり非常に厳しい状況にあります。多様な主体と言いながら、多様とは言い難い地域の状況にあるということが出てきておりますので、こちらについては、見える化という作業をした時には、ほぼ出てこないかも知れません。関わり方としては、1 つずつ、芽のあるところに入っていきしか無いのかなという所でいま進めている所です。比較的、元気に取り組もうとしている所は様々な案を持っておりまして、その 1 つに健康リーダーを活用して、運動を定期的に行っていきたいということで、市の方に話が来ています。そことくっつけたりという作業を進めているところです。</p> <p>どれほどあるかと言うと、現在の地域の状況はかなり厳しいという認識ではありますが、そういった中でもモデルとなるような地域を作り、そこが他の地域に影響を与えるような形での周知、といった形で展開</p>

	が図ればということを感じているところです。
(会長)	第7期素案骨子の項目で、委員の皆様から他にありますか。
(澤田委員)	私は老健の方でパワーリハビリをやっておりまして、先ほどもお話がありました、やっている方々は本当に一生懸命で、自分たちの方でストップをかけるまでやっています。80代90代という方でも、高齢者という言葉を使うのが申し訳ないような感じです。何か月か前に、パワーリハビリの推進協議会、市の方で設立していただく大分前ということで、お話ししたのですが、できれば7期でも計画がありますのでそれを早めに進めて頂ければと思います。どうぞよろしく願います。
(会長)	他にありますか。
(齋藤拓委員)	10ページの⑤、認知症初期集中支援チームについて、この認知症初期集中支援チームは弘前市内で1か所ということでしょうか。
(事務局)	今回は1か所ということです。
(齋藤拓委員)	認知症地域支援推進員はどのような方がなられるのか教えてください。
(事務局)	現在市では認知症地域支援推進員を配置しております。市役所に2名、各地域包括支援センターにそれぞれ1名配置しております。
(会長)	認知症初期集中支援チームはこれから配置するということなんですが、この間ケア会議に行き、どのくらい需要があるのかということを知ったのですが、第二地域包括支援センターの方ではまだ1例も依頼したことはないということでした。これから立ち上げるということなんでしょうけれども、他の地域包括支援センターではどのような状況なのでしょう。
(事務局)	認知症初期集中支援チームは今年の12月設置ということですが、初期集中支援チームを作った時に基本的には処遇困難ケースが来る可能性が高いということで、7つの地域包括支援センターに確認したところ、大体80ケースちょっとという数字が出ております。それで1チームで大丈夫であろうという想定で動いております。
(会長)	それでは2のテーマに入りましょうか。事務局から願います。

	<p>【事務局説明】</p> <p>(会長) いかがでしょうか。資料を見て率直に感じたことなどありましたらお願いします。</p> <p>(小川委員) 2 ページ目ですが、今回、説明いただいたのは、結果ですよね。この結果を踏まえて、結果の背景をどのように市として捉えていらっしゃるのかという所を説明していただければと思います。</p> <p>(事務局) 2 の高齢者像から見た地域分析は一般高齢者になります。支援 1、2 の方ではなく一般高齢者の方、元気な方ということでこのようになっております。やはりその圏域ごとにばらつきと言いますか、弱いところ強いところはあると思うんですけれども、これに関してもこちらの方で把握して行って、今後、各地域包括支援センターでの地域課題の把握にも活用できるものと思っております。また、第 7 期でも、総合事業などに関わってくると思いますが、そちらの方に使いたいと考えております。</p> <p>(事務局) 今回の地域の課題の背景ということでございますが、詳細は分析していないのですが、やはり、農村地域に要介護状態になる方が多いというデータは持っております。市街地に比べて、高齢者の方が出かけていく場所が少ない、ということがあるようです。そういうところもありまして、そのようなリスクが高いという事が、最終的に生活支援事業の様々なサービスを利用するということがあると思っております。また交通機関が少ないということもございます。全部とは言いませんが、それらのことが要因と考えられます。</p> <p>(小川委員) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告書の 93 ページ、地域での活動についてですけれども、95 ページの地域づくりに対する参加意向が、『参加したくない』が約 6 割、『企画運営』の方はもう 7 割を超えて、97 ページ (3) の生活支援サービスとして支援できるものとして、『できない』と『無回答』を合わせると 7 割を超える訳ですよね。この状況で先程の住民を主体とした包括的ケアというのはかなり厳しいと思われる訳なんですけれども、今後、こういった状況の住民の方々にどういった働きかけをしていくのか。または、これが全国的にこういったものなのか、これが全国的なものなのであれば、これを打開しているモデル地域があるはずですので、これが全国的なものなのか、それとも弘前市が高いのかということ、比較しているものでしょうか。</p>
--	---

<p>(会長)</p>	<p>いかがでしょうか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>全国的な比較は行っていない訳なんですけれども、こちらは見える化システムに登録してありますので、他の地域と比較することも可能かと思えますけれども、そこまでは行っておりません。なお、先程、小川委員がおっしゃった参加意向は、要支援1・2の方を対象にした調査でございます。一般高齢者を対象とした調査ではもう少し、地域づくりへの参加意向が多くなっております。</p>
<p>(会長)</p>	<p>他にありますでしょうか。第7期のことでも構いませんが、何か質問などはありますでしょうか。</p>
<p>(小野委員)</p>	<p>県の立場で言わせていただきますと、県も同じような計画を作っているのですが、もう少し概括的な形になっています。それに比べるとやはり市部とか直接住民に接している所と言うのは、今回示されたように具体的なものが出来ているのかなという感じはします。ただ、作り方の部分でどうなのかなと思ったのは、こういうニーズ調査をきちんとして、これだけ詳しい情報をきちんと捉えて、更には、第7期計画を作るにあたって、第6期計画における課題をきちんと抽出して、それに合わせた形で新しい計画を作っていくということで今回はおやりになっているのですが、どうも、せっかく行ったニーズ調査の結果や、それからそれを受けているのか独自に抽出しているのかわかりませんが、第6期における課題というのが第7期に反映されていくのかなというところが、すぐ見えてこないで、その辺に不安が残るかなという感じは若干受けています。ただ、先ほどご説明のあった中で、いろんな調査結果を受けて、実際の計画の中に取り組みでいくんだというご説明もございましたので、そちらの方が、細かい事業が見えてくる時に反映されていくんだらうと期待して、次の練りに練った計画が出てくる時に期待したいと思っているところです。手法部分につきましては、当然各自治体違いますから、弘前市さんはこうやっているんだということであれば、今までやってきたことを踏襲すればいいのであって。</p> <p>もう一つ言わせていただければ、住民との関わり、先程来、何回も出てきていますけれども、厚労省でも、これからは他人のことではなくて、丸ごと自分のことと捉える意識づけというのが大事だといっています。それは多分、行政だけではないんだらうなど。地域社会、地域に住む人々がみんなそういう意識を持たないと、たぶんこれからの社会は成り立ちが難しくなっていくのではないかと思うんです。けれども、一応それに関連したようなことが書かれていて、ああ、そういう風な事に取り組んでいるんだらうなど思ったんですが、いかんせ</p>

ん、地域の人たちにそういうことを申し上げても、自分たちはあくまで納税者であって、受ける方だという意識がどうしても強いので、そういう方たちに対して自分達が自分たちのまちづくりをして、なおかつ、そのなかで包括ケアとかいろんな事業をやっていく中で、助け合いながらやっていくんだという意識を持たせていくというのは、並大抵ではないと思うんですが、是非そういった部分についても、市の方でも取り組んでいると思うんですが、その辺に持っていくような取り組みを是非やっていただければなと思います。

(会長)

良いご意見をありがとうございました。それではこの案件につきましてはよろしいでしょうか。

4. その他

その他何かありますでしょうか。

(柳田委員)

こう見えて、私は歌を歌うんですが、昔エレキバンドをやったことがありますして、自分でコンピューターで曲を作って、老人施設から頼まれて歌を歌ったりするんですが、石原裕次郎とか昔の歌をやるとお年寄りが目を輝かせるんですよ。元気が無い人が、1時間近くやって終わることには手足を動かすようになるんですよ。手拍子もしたり。昔流行った歌、10歳か20歳の時に聞いた歌っていうのは死ぬまで忘れないものですよ。切れているものが繋がるような感じで元気になるんですな。あれは不思議なものですな。音楽の作用と言うのはすごいものだなと。

(会長)

音楽療法の話ですね。実際に効果があるということは言われております。こういうことでしょうか。ほかにありますか。

(木村委員)

私ども市老連として年間の事業は大分ある訳なんですけれども、一番人気があるのは芸能発表会です。次に人気があるのがグラウンドゴルフ。ゲートボールは最近下火になりましたけれども、これも結構人気があります。驚いたことは、普段地域で道路を歩いている時は腰を曲げて歩いている人が、グラウンドゴルフの時はピットとしてやっています。また地元に戻れば腰を曲げて歩いております。

やっぱり、自分がやりたいっていうものに自分から行くようになれば、まさにこれが健康に繋がるんじゃないかということを感じております。うちの方でも、なかなか外に出たがらない人をどうやって引き出すかということをやっておりますが、あまり心の負担を感じないで、その会合に行ってみればワイワイ楽しく騒いで帰ってくると、そういうのを生きがいと感じているんじゃないかと思います。

<p>(会長)</p>	<p>サークル活動をやっている老人クラブというのは会員が増えている訳です。行政もいろいろやっていただいています、末端に行くことやる気につながらないということもあります。行政も大変でしょうが、我々も頑張ります。更なるものを期待しています。</p> <p>他にございますか。無いようですので、これをもちまして本日の案件は全て終了いたしました。皆様、ご協力ありがとうございました。</p> <p>【司会】</p> <p>本日皆様から頂いたご意見を参考に、次回12月中旬に開催予定の第3回審議会におきまして、事業計画素案を皆様に提示したいと考えております。</p> <p>5. 閉会</p> <p>次回は、12月開催予定。</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議は公開である。 ・ 傍聴者数4名